～～からから

RYU

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
～～からから

【Ｎコード】
Ｎ２５１４Ｃ

【作者名】
ＲＹＵ

【あらすじ】
好きな時に読めて、好きな時にやめれる、まったり中学生コメディーです。試し小説です。字だけの４コマみたいなものです。皆様のイメージとは異なると思いますので、ご了承ください。

1～10話

［扇風機］

千晶　「毎日毎日暑いよね～」
あゆみ「こういう日は、やっぱり扇風機でしょ！！」
千晶　「そうそう」
沙耶　「扇風機の前に行くと、あああああって言いたくなるよね」
あゆみ「わかるわかる」
千晶　「そうかな～？」
沙耶　「千晶ちゃんは、なんにも言わないの？」
千晶　「いや、言うけど・・・」
あゆみ「なんて？」
千晶　「ワレワレハ　ウチュウジンダ」
あゆみ「そっちかよ！！！」
沙耶　「わからなくはないけどね・・・」

［温暖化］

千晶　「最近暑いよね～」
あゆみ「そうね。温暖化だからね～」
千晶　「温暖化か」
あゆみ「そうそう、温暖化」
千晶　「・・・・・・欧米か」
あゆみ「その”か”じゃないよ！！！」

［なす角］

先生　「この辺とこの辺がなす角は・・・・・」
千晶　「・・・・！？」

キンコンカーン
先生　「これで授業終わり」
千晶　「沙耶沙耶～」
沙耶　「どうしたの？千晶ちゃん？」
千晶　「なす角って、茄子角だったらおもしろくない？」
沙耶　「・・・・・・・・」
千晶　「だって、茄子にカドなんて無いじゃん～」
沙耶　「そうだね～。おもしろいかも～」
あゆみ「お前らはそれでいいのか？」

［じじぬき］
千晶　「あ～これじゃないんだよね」
大志　「お！トランプじゃん」
沙耶　「おもしろいよ～」
大志　「ばばぬきか～」
あゆみ「ま、そんなもん」
大志　「俺も入れ～」
千晶　「それは無理なんだよね～」
大志　「どうして？」
千晶　「これ、じじぬきだから」
大志　「は？」
千晶　「だから、じぃじぃは無理」
沙耶　「千晶ちゃん。それはひどいかも」
あゆみ（ここはあえて突っ込まないでおこう）

［ばばぬき］
大志　「またトランプやってるのか」
あゆみ「ま～ね～」

大志　「千晶は？」
沙耶　「なんか、職員室に用事があるんだって」
大志　「そうなのか。じゃあ、俺も入れて」
沙耶　「いいよ～」
あゆみ「何する？」
大志　「じゃあ、ばばぬきで」
沙耶　「ＯＫ」

千晶　「トランプやってる～。私も入れて」
大志　「無理。だって、今やってるのばばぬきだから」
千晶　「む～」
大志　「うそうそ。いいよ」
千晶　「次はじじぬきしよ」
大志　「ちょっと待った！！！！」
あゆみ（やはり、千晶のほうが上か！）

［病院］
沙耶　「病院って嫌だよね～」
あゆみ「なんかあの雰囲気がね」
千晶　「待ち時間のつぶし方無いしね～」
あゆみ「あれ？沙耶って病院通ってたっけ？」
沙耶　「行ってないよ～」
千晶　「じゃあなんで病院の話題！？」
沙耶　「コンタクトだから、定期検査行かなきゃなんだけど、ここ３ヶ月ぐらい行ってないな～って思って・・・」
あゆみ「行けよ！！」

［占い］

千晶　「今日の占いで、告白されるかもだって！」
あゆみ「よかったじゃん」
千晶　「でも良く考えると、星座って１２個あるじゃん。それで日本の人口を割ると、１０００万人の人が告白されるってことだよね」
あゆみ「占いは、当たるも八卦当たらぬも八卦だからね」
千晶　「ってことは、５０％だから、５００万人か～。その中に入れるかな～」
あゆみ（そこまでいくと突っ込めね～よ！！）

［次元］
あゆみ「大志はいっつも私たちのところ来るけど、彼女いないのか？」
大志　「いるよ。おまえらとは次元が違うけどな」
あゆみ「言ってくれるじゃないか」
大志　「毎日携帯の中から微笑んでくれるのだ」
あゆみ：携帯の中をのぞく
あゆみ「・・・・・・２次元かよ！！！現実に帰って来い！！」

［コンタクト］
沙耶　「あれ？コンタクト落としたかも・・・」
あゆみ「皆止まって！！！コンタクト落ちたって」
クラス内フリーズ状態
沙耶　「どこかな～？」
千晶　「コンタクトって、なかなか見つからないんだよね～」
沙耶　「あ！！」
あゆみ「あった？」
沙耶　「今日つけてくるの忘れたんだった！」

あゆみ（クラス全員止まってるこの状態をどうしろと・・・）
千晶　（いろんな意味で、沙耶はクラスを凍らせたな。それでこそ沙耶だ）

［口癖］
あゆみ「友だちで、”あっそ”ばっかり言う人いるんだよね～」
千晶　「口癖ってやつだね」
沙耶　「でも、”あっそ”だけじゃ会話できないよね」
あゆみ「そういうんじゃなくて・・・」
千晶　（そんなところが引っかかるのか沙耶！？）

１～１０話（後書き）

意見・感想等お待ちしております！！！

11～15話

［夏と冬］

千晶　「あゆみ～。何で、夏に辛いものを食べたくなるの？」
あゆみ「唐突ね。たぶん、辛いの食べると熱くなるでしょ。その反動で、涼しく感じるからじゃない？」
千晶　「ふ～ん。じゃあ、冬にアイス食べたくなるの？」
あゆみ「冬は気温が低くて、アイスが溶けないからだよ」
千晶　「なるほど！でもさ～、室内にいたら夏は涼しいし、冬は暖かいから、最近じゃ意味ないね」
あゆみ「それを言ったら、元も子もないじゃない」
千晶　「みんな流されながら生きてるんだね～」
あゆみ「お前もな！！」

［七夕］

千晶　「もうそろそろ七夕だね」
あゆみ「もうそんな季節か・・・」
千晶　「雨が降らないと良いね～」
あゆみ「雨が降っても、鶴が橋になって彦星と織姫を会わせてくれるらしいよ」
千晶　「え！！彦星と織姫は、鶴を踏むの！？」
あゆみ「まぁ、そういうことになるわね」
千晶　「虐待じゃん！！」
あゆみ「お前にはメルヘンが足りない！！」

［天の川］

沙耶　「天の川は、綺麗だよね」

あゆみ「そうだよね～。神秘的だよ」
千晶　「でも、死人がたくさんいるんだよね？そう考えると、ちょっと・・・」
沙耶　「そうなの！？初めて聞いたよ～」
あゆみ「それは、三途の川だから！！ってか、信じるなよ沙耶！！」

［開き］
千晶　「最近いろいろ開いてるよね～」
あゆみ「開いてる？」
沙耶　「あ！！海開きとか山開きとかプール開きとかのことだね」
千晶　「そうそう。ということは、あゆみの頭ももうそろそろ開くのか！？」
あゆみ「開くわけないだろ！！」
沙耶　（千晶ちゃんは、あゆみちゃんのことをなんだと思ってるんだろ～？）

［とばっちり］
沙耶　「千晶ちゃん。あゆみちゃんは、ちゃんとした人間だよ！！」
あゆみ「こいつだってわかってるよ！！」
千晶　「いつも沙耶は、変なところを拾うな～。でも、少し違うぞ」
沙耶　「え！？」
千晶　「あゆみは、”ちゃんと”してない！！」
あゆみ「ちゃんとしてるよ！！少なくとも千晶よりはな！！」
千晶　「何を言ってるんだ？ここにいる全員ちゃんとしてないよ」
沙耶　「私も！！」

あゆみ「あ～言えばこういう」
千晶　「でも大丈夫。皆あいつよりましだ！！」
千晶：大志を指差す
大志　「何の話だよ？ってか、何でお前ら全員納得してんだよ！！」

１１～１５話（後書き）

ご意見・ご感想をお待ちしております

16～20話

［扇風機2］

あゆみ「前、扇風機の話したじゃん」

千晶　「したね～」

あゆみ「千晶って、なんて言うんだっけ？」

千晶　「ワレワレハ　ウチュウジンダ　だよ」

あゆみ「そうそれ」

千晶　「？」

あゆみ「扇風機に話してるんだから、普通に我々は宇宙人だ。って言えばいいんじゃない？」

千晶　「は！！」

［卵と鶏］

千晶　「卵と鶏ってどっちが最初なんだろうね？」

あゆみ「鶏かな～。だって、鶏がいなかったら、卵はないわけでしょ」

千晶　「なるほどね～。でも、卵が無いと鶏は生まれないよ」

あゆみ「う～ん」

沙耶　「間を取って、ひよこじゃない？」

千晶　「まっ、どうでもいいんだけどね」

あゆみ「お前から振ってきた話題を投げ出すな！！ってか、間を取ってひよこってのもどうなのよ！？」

［焦り］

千晶　「あ～、もう！！時間無いってのに！！」

沙耶　「焦っちゃうとうまくいかないよね～」

あゆみ「そうそう。だから焦らなくていいように計画立ててやりな」
千晶　「沙耶は、時間無い時どうする？」
沙耶　「う～ん・・・・・・・・あきらめる」
千晶　「なるほど！！！」
あゆみ「いや、がんばれよ」

［純金の水着］
千晶　「今日ニュースでやってたんだけど、純金の水着が１０００万円で売り出されるらしいよ！！」
沙耶　「知ってる。ピッカピカだったね！！」
あゆみ「でも、その水着じゃもったいなくて泳げないね」
千晶　「持ってるだけで幸せな気分になれるんじゃない？」
あゆみ「だったら何で水着を選ぶかな～。ドレスとかのほうが良くない？」
千晶　「どうしてあゆみは現実的かな～」

［テスト勉強］
千晶　「今回は一夜漬けじゃなくて、ちゃんと勉強しようと思ってたんだけど・・・」
あゆみ「したらいいじゃない」
千晶　「事前に勉強してもどうせ忘れるんだから、一夜漬けで良いかな～って思ってさ」
あゆみ「さては、勉強が面倒になったな！」
千晶　「バレたか！？」

１６～２０話（後書き）

ご意見・ご感想をお待ちしております

21～25話

［中国雑技団］

千晶　「どうして、中国雑技団はあんなことできるんだろうね？」
あゆみ「多分すっごい練習してるんだろうね」
千晶　「練習したらできるようになるかな～？」
あゆみ「なるんじゃないの？」
千晶　「じゃあ、証明してくれあゆみ！！」
あゆみ「自分でやれよ！！」

［エイプリルフール］

千晶　「どうしてエイプリルフールなんてあるんだろう？」
あゆみ「1年に1回くらいは、嘘をついても良い日があってもいいじゃないか」
千晶　「でもさ、エイプリルフールじゃなくても嘘つくじゃん」
あゆみ「ま～なんだろう？エイプリルフールは嘘のお祭りなんだよ！」
千晶　「なるほど！！」

［てるてる坊主］

沙耶　「てるてる坊主の目の下に赤い線を入れると・・・照れてる坊主～」
あゆみ「そんなんやってて楽しいか？」
沙耶　「楽しいよ～」
あゆみ「千晶はなにやってるんだ？」
千晶　「てるてる坊主の目の下に黒い線を入れると・・・隈出る坊主～」

あゆみ「てるてる坊主を休ませてやれよ！！」

［体育委員の私事］
あゆみ「今年の運動会の徒競走って、大志が決めたんだよね？」
大志　「そうだよ」
あゆみ「徒競走の順番おかしくなかった？」
大志　「そうか？」
あゆみ「だって、華の最後の組に足遅い人ばっかりだったし・・・
沙耶とか」
大志　「華の最後の組だからな～かわいくないと！！」
あゆみ「顔で選ぶなよ！！」

［寝間違え］
千晶　「寝違えたよ～」
沙耶　「寝違えると不便だよね」
千晶　「そうそう。忘れてて首動かすと痛くてさ～」
沙耶　「どうしてなるんだろうね？」
あゆみ「寝方を間違えるからじゃない？」
千晶　「なるほど！昨日は大の字で寝たのが悪かったのか・・・今
度から気をつけよ～」
あゆみ「いや、そういう意味じゃないから！！」

２１～２５話（後書き）

ご意見・ご感想お待ちしております

26～30話

［長期休暇の友達］

千晶　「長期休暇って言えば、忌々しい友達がいたな～」

あゆみ「夏休みの友とか冬休みの友とか？」

千晶　「そうそう。でも、今年からは中学生だから友達とはお別れなのだ～」

あゆみ「その代わり、友達じゃない物がたくさん来たけどな」

千晶　「友達でもないのに家に上がりこむ、この宿題たちはなんなんだ～」

あゆみ「ん～。友達の友達って所じゃない？」

千晶　「なるほど。友達の友達か～。って、それは赤の他人じゃないか！！」

あゆみ「いや、例えだから・・・」

［夏休み初日　沙耶編］

沙耶　「おはよ～」

沙耶母「おはよう」

沙耶　「今日も暑いね～」

沙耶母「そうね・・・・なんで沙耶は制服を着ているの？」

沙耶　「何でって、学校行かなくちゃ」

沙耶母「今日から夏休みでしょ！」

沙耶　「そうだった！間違えちゃったよ～」

沙耶母「沙耶の将来が心配だわ」

沙耶　「大丈夫だよ～」

沙耶母（どこが大丈夫なのかしら？）

［夏休み初日　千晶編］
千晶　「明日から夏休みだから、お昼まで寝れるな～」
次の日の朝。
ジリリリリリリリリリ。
千晶　「うわ！！」
千晶：目覚まし時計を止める
千晶　「目覚まし機能切るの忘れてた・・・」

［二度寝の末路］
千晶　「もう一回寝よう」
・・・三十分後・・・
千晶母「起きなさい。学校に遅れちゃうわよ」
千晶　「今日から夏休みだから・・・」
千晶母「そうだったの？じゃあ、もう一回寝てなさい」
千晶　「お母さん。もう少し子供に関心を持とうよ・・・」

［夏休み初日　あゆみ編］
あゆみ「今日から夏休みか～。宿題の計画でも立てるかな」
あゆ母「あゆみ。朝食の準備手伝って～」
あゆみ「いいよ」

あゆ母「あゆみ。掃除手伝って～」
あゆみ「は～い」

あゆ母「あゆみ。一緒に昼ドラ見ましょう」
あゆみ「はいはい」
あゆみ（夏休みは夏休みで疲れるな・・・）

２６～３０話（後書き）

お気軽に感想・意見をください

夏休み編

千晶　「もしもし～」
あゆみ「もしもし。高橋ですけど、どちらさまですか？」
千晶　「千晶だよ。ってか、あゆみって、高橋って苗字だったんだ～。一瞬間違えたかと思ったよ～」
あゆみ「友達の苗字ぐらい覚えてようよ・・・」

あゆみ「で、何のよう？」
千晶　「遊びに行こうかと・・・。沙耶も誘ったし」
あゆみ「いいわよ。どこ集合？」
千晶　「駅前で。じゃあ、また後で～」
ツーツーツー。電話が切れる。
あゆみ（待ち合わせ場所はいいんだけど、時間言ってから切れよ！！）

千晶　「お！来た来た～」
沙耶　「おはよ～」
あゆみ「おはよ。どこにいく？」
沙耶　「買い物したい～」
あゆみ「じゃあ、買い物からするか」
沙耶　「しゅっぱ～つ」
あゆみ「沙耶！！目的のものはそっちにはないよ！！」
千晶　（いるよな～。道わかんないのに先頭歩く人）

デパート到着
千晶　「服とか見る？」
あゆみ「そうだね～」
千晶　「あれ？沙耶は？」

キンコンカンコン
店員　「沙耶様が迷子になっております。お友達の方は迎えに来てください」
キンコンカンコン
千晶　「中学生で迷子って・・・」
あゆみ「ってか、到着してから十分もたってないぞ！！」

千晶　「買い物も終わったし、ご飯食べたらカラオケでも行きますか」
あゆみ「いいね～」
沙耶　「カラオケって、英語でもカラオケって言うらしいよ」
あゆみ「沙耶にしては良く知ってるわね。後、枝豆とかもそのままよ」
千晶　「過労死とかもね」
沙耶　「え！？」
千晶　「だから、ｋａｒｏｕｓｈｉらしいよ」
あゆみ「ずいぶんマイナスな日本語が英語になったものね」

カラオケ終了
沙耶　「カラオケの後って、喉が痛くなるよね」
あゆみ「それは仕様がないんじゃない」
千晶　「時間も時間だし、家に帰るか～」
沙耶　「そうだね～」
あゆみ「沙耶！！そっちの方向じゃないよ！！」
千晶　（沙耶の将来が心配だ～。ってか、学習しようよ～）

夏休み編（後書き）

ご意見、ご感想をお待ちしております

夏祭り編

［浴衣］

千晶　「夏といったら祭りでしょ！！」

沙耶　「そうだね～。千晶ちゃんの浴衣かわいいね」

あゆみ「馬子にも衣装ね」

千晶　「私はあゆみの孫じゃない！！」

あゆみ「そういう意味じゃないから・・・」

［わたあめ］

沙耶　「わたあめ買っちゃった」

あゆみ「沙耶がわたあめ持ってると素でかわいいわね」

沙耶　「そうかな～？あゆみちゃんもかわいいよ」

千晶　「いや、あゆみの場合は・・・」

あゆみ「なによ！！」

千晶　「羊の毛を持ってるみたい」

あゆみ「そんなわけあるか！！」

［金魚すくい］

千晶　「金魚すくいやろ～」

あゆみ「いいね～」

沙耶　「ここのはポイだね」

・・・・

沙耶　「全然取れないよ～」

あゆみ「私もよ・・・って、千晶すごいな！！」

千晶　「まぁね～。悪の魔の手から金魚を助けないと」

あゆみ「は～？」

千晶　「だって、金魚救いでしょ」
沙耶　「千晶ちゃんは救世主だね」
おじさん「持って帰るかい？」
千晶　「いらないです」
千晶：金魚を返す
あゆみ「結局救ってないじゃん！！」

［ばったり］
あゆみ「大志じゃん」
大志　「よ～。お前らも来てたのか」
あゆみ「祭りくるなんて大志らしくないわね」
大志　「祭りというより、浴衣を見に来た」
あゆみ「なるほどね。大志らしくなった・・・ということで、女の敵よ帰れ！！」
大志　「ひど！！」

［花火］
あゆみ「花火が始まるみたいよ」
沙耶　「花火ってきれいでいいよね～」
バン
千晶　「きれいだね～」
あゆみ「うん」
バン・バン・バン
千晶　「今日は晴れててよかったけど、風がないと煙で花火が見えなくなっていくね・・・」
あゆみ「そうね」

［後の祭り］

沙耶　「今日は楽しかったね～」

あゆみ「そうね。でも、ちょっと疲れた～」

沙耶　「まさに、後の祭りだね」

あゆみ「意味間違ってるよ沙耶」

沙耶　「はう！」

［帰り道］

千晶　「祭りの後だと、お財布の中身がさびしくなるよね」

あゆみ「ま～。祭りは雰囲気でいろいろ買っちゃうしね」

沙耶　「そうだね～」

千晶　「じゃあ、ここで解散だね。じゃね～」

あゆみ「バイバイ」

沙耶　「ばいばい」

沙耶　「ここは・・・どこ？」

夏祭り編（後書き）

今後の意欲となりますので、ご意見・ご感想等をどしどしくださいませｍ（　　）ｍ

宿題編

［遊ぶこと意外］

千晶　「夏休みは天国だな～」

電話がかかってくる。

千晶　「もしもし～高峰ですけど～」

あゆみ「あゆみだけど…。今日、３人で勉強会する予定だったよね？」

千晶　「え？」

あゆみ「沙耶はもう来てるよ！！」

千晶　「え、え～と…」

あゆみ「遊ぶこと意外も少しは考えろ！！」

［国語］

千晶　「あゆみ～。このことわざなんだけど」

あゆみ「どれどれ～。“２度あることは３度ある”これがどうかしたの？」

千晶　「これって、２回あったことは、３回目もあるってことだよね？」

あゆみ「そうよ」

千晶　「でもさ～、“３度目の正直”とも言うよね。これって矛盾してない？」

あゆみ「そういうのは、大人の事情でどういう場合でも当てはまるようにできてるのよ」

千晶　「大人はズルイな～」

［数学］

千晶　「数学は難しいな～」
沙耶　「本当だよ～。こんなの解けないよ」
千晶　「どうしようか～」
沙耶　「あきらめて、次の問題しようか」
千晶　「そうだね～」

沙耶　「…難しいから次の問題にしようか」
千晶　「そ、そうだね…」

沙耶　「これも難しいね…」
千晶　「次なら解けるかもよ…」

沙耶　「…」
千晶　「…あゆみ～助けて～」
あゆみ「お前ら2人だけだと、何にも進展しないな！！」

［理科］
千晶　「理科は教科書引くと、そのまんま答えが載ってるからいいよね～」
沙耶　「そうだね～。でも、これだったらやる意味ないね～」
あゆみ「答え探しゲームじゃないんだから、少しは考えろ！！」
千晶　「でもさ～」
あゆみ「何よ？」
千晶　「あゆみも教科書で調べてるじゃん」
あゆみ「べ、別に分からないところはいいの！！」
千晶　「でしょ～。私と沙耶は、全部分からないもん！！エッヘン」
あゆみ「威張るな！！」

［社会1］
沙耶　「鳴くよ（７９４）　うぐいす　ホーホケキョ」
あゆみ「それじゃあ、何の意味も無いよ！！」
沙耶　「え！？」

［社会2］
千晶　「良い国（１１９２）作ろう阿部内閣」
あゆみ「まず、１１９２年じゃない！！ってか、阿部内閣は…っと危ない」
千晶　「どうしたの？大人の事情？」
あゆみ「そうよ！！」
千晶　「大人はズルイな～」
あゆみ「私は子供だけどな！！」

［英語］
千晶　「Ａｒｅ　ｙｏｕ　ｆｏｏｌ？」
沙耶　「どういう意味？」
千晶　「あなたは馬鹿ですか？って意味だよ！」
沙耶　「え！？」
あゆみ「そういうのばっかり覚えやがって！！」

宿題編（後書き）

作者は、意見・感想を心待ちにしていますm（＿＿）m

31～35話

［2次元、3次元］

大志　「2次元かつ3次元みたいな子いないかな～」
あゆみ「いるわけないでしょ！！」
千晶　「理想ばっかり追い求めてないで、少しは妥協すれば～」
大志　「そうか、妥協か！！よし！！3次元をあきらめよう！！」
あゆみ「お～い、戻ってこ～い」
千晶　「ほっとけ、ほっとけ」

［声］

千晶　「小説とか漫画の声って、想像しちゃうよね～」
沙耶　「そうだね～。自分の思い通りだよね」
千晶　「だからね、私たちの声も想像されてるのかな～と・・・」
沙耶　「どういうこと！？」
千晶　「沙耶にはまだ早いかな」

［魔法］

沙耶　「魔法が使えたら、何でもできそうでいいよね～」
あゆみ「千晶は魔法使えたら何する？」
千晶　「う～ん。悪魔を召還して、それを退治する」
沙耶　「かっこいい～。戦う少女だね」
あゆみ「ちょっと待て！悪魔召還したらダメだろ！！」

［仕事］

千晶　「なんで学校は、こんなに朝早くからこないといけないんだ

ろうね～」
あゆみ「ま、勉学が学生の仕事だからね」
千晶　「でも、お金もらえないよね？ってか、お金払ってるし・・・」
あゆみ「そういうことを言うのは、小学校までにしないか？」

［大食い］
千晶　「昨日テレビで、大食いの番組やってたんだけど、大食いの人ってすごいよね」
沙耶　「どうやったらあんなに食べれるんだろう？」
あゆみ「大食いの人たちは、胃が大きいか、消化が早い人に分かれるらしいけど、どっちにしても生まれつきみたいよ」
沙耶「そっか～」
千晶「あゆみは1つ見逃してるよ！！胃がブラックホールの人だっているはずだからね！！」
あゆみ「そんな人いないから！！ってか、そんな人いたら口開けるたびにいろんなもの吸い込んじゃうから！！」

31～35話（後書き）

作者は、皆さんの感想・意見を心待ちにしておりますm（＿＿）m

３６～４０話（前書き）

今回からあとがきも書くことにしました。お暇でしたらご覧下さい。

36～40話

［好きなもの］
沙耶　「好きなものって、先に食べる？後に食べる？」
千晶　「私は、後だな～」
沙耶　「私と一緒だ！！でもさ～後に食べようと思ってもお腹が一杯で食べれなくなっちゃうことあるよね」
千晶　「それわかる～」
あゆみ「私は、先に食べるからそんなことないわね」
千晶　「あゆみの場合は、他の人の分まで食べそうだけどね！！」
あゆみ「それはないな～」
沙耶　「でも昨日、給食で出た私のプリン食べたよね～」
あゆみ「そ、それは沙耶が食べれないって言うから…」
千晶　「はいはい。私はわかってるよ～」
あゆみ「むぅ…」

［嫌いなもの］
千晶　「嫌いな食べ物は、先に食べる？後に食べる？」
あゆみ「私は、好きなものの後に食べるかな？」
沙耶　「私は、食べないな～」
千晶　「そうだよね！！食べないよね！！」
あゆみ「お前らは、選択肢外から答えを持ってくるな！！ってか、好き嫌いしないで、ちゃんと食べろ！！」

［沙耶のスカート］
千晶　「沙耶って校則破りそうにないけど、スカートだけは短くしてるんだね」

あゆみ「言われてみればそうね。理由とかあるの？」
沙耶　「えっ！？この長さが普通じゃないの？皆このぐらいの長さだから、てっきり・・・」
あゆみ「まぁ、校則ぐらい覚えてようよ・・・」

［雨］

沙耶　「雨って嫌だね・・・」
千晶　「心が暗くなるよね～」
あゆみ「でも、雨が無いと農作物が育たないし、ダムとかの水がなくなるから意外と困るんだよ」
千晶　「あゆみはポジティブだな～」
あゆみ「ま、空模様に合わせて暗くなることはないってことよ」
千晶　「だったら、このじめじめもポジティブに考えてみてよ～」
あゆみ「え～と、う～んと・・・」
千晶　「あゆみには無理か～」
あゆみ「なによ！！だったら、千晶はあるの？」
千晶　「あゆみの困った顔が見れる」
あゆみ「なっ！？何言ってるのよ（照）」

［ブログ］

千晶　「最近ネット上で日記書くのが流行ってるよね～」
あゆみ「ブログってやつだっけ？」
千晶　「そうそう。知り合いもやってるみたいなんだ」
あゆみ「そうなんだ。おもしろそうだよね」
千晶　「うん。でも・・・」
あゆみ「でも？」
千晶　「その人のプロフィール嘘ばっかりなんだよね。ネットの世界では、理想の私ってのはどうなの？」

あゆみ「ほっといてやれよ」

３６～４０話（後書き）

現在は夏休み中なので、ネット環境のない実家で暮らしています。よって、携帯で書いたり編集したりをおこなっているため、かなり変なところがあります。特にスペース・改行がうまく使いこなせませんｏｒｚあとで直しますので、しばらくお待ち下さいｍ（＿＿）ｍというか、あとがきは何を書いたら良いのか全くわかりません！ただ一つ言えることは、来週落とすかも…

41～45話

［三匹のこぶたの話］

千晶　「ふと疑問に思ったんだけど、三匹のこぶたの話しって変だよね」

あゆみ「どこらへんが？」

千晶　「だって、今の家ってほとんどが木造なわけじゃん。でも、台風が来ても大丈夫だよね。なのに、三匹のこぶたの話しだと狼の息で飛ばされてるじゃん！！ってか、豚ごときに家が作れるのか？」

あゆみ「童話なんだから現実的に考えるなよ！！」

［タヌキ］

沙耶　「タヌキってすごいよね～」

千晶　「フサフサ感とかが？」

沙耶　「違うよ～。化けれるところがだよ～」

千晶　「ま～、好きなものになれるのはいいよね」

あゆみ「沙耶。現実世界ではタヌキは化けれないからな！！」

沙耶　「そうなの！？」

千晶　（沙耶は本当に信じてたのか！？）

［注意看板］

ゴン！！

沙耶が足をぶつける。

沙耶　「痛いよ～」

あゆみ「気をつけて歩かないとダメだよ！！沙耶がぶつかった看板にも、”足もとに気をつけてください”って、ちゃんと書いてあるでしょ」

沙耶　「う～～ん」
千晶　「でも、そういう看板って、目に付いた人は躓かないよね？何のために書いてあるんだろうね」
あゆみ「確かに…」
沙耶　「これからは足もとに気を付けてくださいってことかな？」
千晶　「一理あるね。うん」
あゆみ（それで良いのか？でも、間違ってもいないよな～。あ～もう！！）
沙耶　「あゆみちゃんどうしたの？」
あゆみ「沙耶のせいよ！！」
沙耶　「え！？」
千晶　「あゆみには、狂犬注意の看板が必要だね」
あゆみ「大きなお世話よ！！」

［オレオレ詐欺］
電話中
あゆみ「ってことで、明日のプリントを忘れないでって連絡網でまわしてだって」
大志　「わかった」
大志が千晶に電話をかける。
千晶　「もしもし～」
大志　「俺だけど、明日…」
千晶　「オレオレ詐欺には興味ありません」
ツーツーツー。電話を切られる。
大志　「…お、俺が悪かったのかな？」

［雲］
沙耶　「雲が全部わたあめだったらいいのにね～」

千晶　「そうだね～。でも、食べ切れなさそう」
沙耶　「日にちを分けて食べればいいんだよ～」
千晶　「なるほどね」
あゆみ「話しの途中で悪いけど、雲がわたあめだったら、とどかなくないか？」
千晶　「ま～、例え話だから」
沙耶　「う～ん。どうしたらいいんだろう？」
千晶・あゆみ（本気で考えるかこの子は！！）

４１～４５話（後書き）

今週もなんとか落とさずにすみました。やはり、携帯で書くのは大変ですね！親指が少し痛かったです。それは、そうと。来週から、新コメディー連載（ドタバタ系）を始めようと思いますので、そちらもよろしくお願いします！それでは、来週にお会いしましょう。

46～50話＋α

［シーフード］

千晶　「シーフードはやっぱりおいしいよね！！」

沙耶　「うん。このサクサク感がたまらないよ～」

あゆみ「シーフードって、お前らが食べてるのは○―ルじゃないか！！」

千晶　「だから、こうやって開いてるほうをこっちに向けると・・・Cフード」

あゆみ「そうですか・・・」

［出るもの］

千晶　「このお菓子おいしいんだよ！！食べてごらん」

あゆみ「じゃあ、もらうね。うん、おいしいわね」

沙耶　「千晶ちゃんは、よくおいしいお菓子見つけるよね～。すごいよ！！」

千晶　「沙耶～。褒めても何もでないよ～」

あゆみ「いや、出るものあるよ」

千晶・沙耶「えっ！？」

あゆみ「私たちのお腹・・・」

千晶・沙耶「あっ！！！！」

［安売り］

千晶　「この時期になると、夏物の服が安売りされてるよね～」

あゆみ「来年のために買い込んどかなきゃ！！」

千晶　「でもさ～。いざ来年になると、買ってたの忘れるたりするし、覚えてても何でこれ買ったんだろう？って、言うのもあるよね」

あゆみ「安いって、不思議だよね～」
千晶　「ね～」

［こい］
あゆみ「鯉って、おいしいのかな～？」
千晶　「あゆみは、いつでも食べることばっかり考えてるな～」
あゆみ「そんなことないわよ！！」
大志　「鯉はおいしくないらしいぞ！！」
あゆみ「そうなんだ～」
大志　「でもな、とっても甘いんだ！！」
あゆみ「言ってる意味が分からないんですけど・・・」
大志　「だって、“恋”だもの」
千晶　「・・・次の授業始まるね」
あゆみ「ほんとだ！！席戻らないと」
大志　「スルーですか！？」

［忘れ物］
千晶　「あっ！！教科書忘れてきた！！」
あゆみ「千晶はだらしないな～」
沙耶　「あっ！！メガネ忘れてきた！！」
あゆみ「沙耶は、コンタクトでしょうが！！」
沙耶　「そっか～。家ではメガネだから、てっきり・・・」
あゆみ「ってか、コンタクトしてるんだから見えるだろう！！」

［５０話を終えて一言］
作者　「それでは、沙耶さんから」
沙耶　「これからも頑張ります！！」

作者　「これからもよろしくお願いします。次に千晶さん」
千晶　「この小説って、私たちの会話の盗聴ですよね？」
作者　「えっ！？」
千晶　「盗撮に発展しないようにしてください」
作者　「・・・。続きまして、あゆみさん」
あゆみ「べ、別にありません」
作者　「あゆみさんは、ツンデレにもっていこうとして失敗しました」
あゆみ「失敗言うな～！！」
作者　「それでは、これからも・・・」
大志　「あ、あの～」
作者　「あ！！大志さんを忘れてましたね。どうぞ～」
大志　「出番をもっとください！！」
作者　「却下です！！それでは、来週からも“～～からから”を」
全員　「よろしくお願いします！！」

４６～５０話＋α（後書き）

今回で５０話です。あきらめやすい性格なのに、よく続いたな～と自分でも思っております。いや、この程度なんて普通なのでしょうが・・・。とりあえず、次の目標は１００話ということで、これからも頑張っていきたいと思います。

常々思うことなのですが、毎週５話でいいのかと・・・。でも、話数を増やすのも結構つらい現状です。よって、来週からはおまけを１つ設けようかと思っています。ま～、１話増えると思っていただけたら間違いないと思います。キャラもこれから増やしていくつもりです。

読者の皆様に喜んでいただけるよう頑張っていきますので、これからもよろしくお願いします。

51～55話

［天然記念物］

千晶　「昨日テレビで、天然記念物の特集やってたよね」
あゆみ「千晶がそういうテレビ番組見るのって珍しいね」
千晶　「いやさ～それって見に行く意味あるのかな～？と思ってさ」
あゆみ「というと？」
千晶　「私たちの近くにもいるじゃん」
千晶が沙耶を指差す。
あゆみ「あ～、そういう天然じゃないから」

［新しいスルー］

大志　「昨日俺の好きな有名人が出てて、めっちゃかわいくてさ～」
千晶　「ほ～、それで？」
大志　「今日は流さないんだな！？ま～、彼女は他の人と目が違うんだよ！！それと・・・」
千晶　「沙耶～。今日の宿題見せて～」
沙耶　「私の見ても、あってないよ～」
大志　「今回は、持ち上げといて流すわけですか・・・」

［ラッキーアイテム］

あゆみ「千晶って、カバンにキーホルダー付けてたっけ？」
千晶　「あ、これ？今日の占いでラッキーアイテムだったんだ～」
沙耶　「千晶ちゃん良いな～。私のラッキーアイテムはワンピースだったんだけど、学校に来てこれないし・・・」
千晶　「もしやラッキーアイテムって、身に付けれるかどうかでラッキーを測ってる！？」

沙耶　「それじゃ、今日はラッキーじゃないんだ～」
千晶　「私は、ラッキーだね！！」
あゆみ「いや、占いの内容で決めろよ！！」

［流れ星］
沙耶　「流れ星に3回願い事言うなんて無理だよね～」
千晶　「そういうのは短く言えば良いんだよ」
沙耶　「例えば？」
千晶　「金・金・金とか」
あゆみ「でもそれだと、お金をどうしたいかが伝わらないんじゃない？」
千晶　「そっか～」
沙耶　「今度流れ星見たら、流れ星にお願いが3回言えますようにってお願いしよう」
千晶・あゆみ（それじゃあ意味がないんじゃ！！）

［コンビニ］
千晶　「この前小腹空いてコンビニに言ったんだけど、食べたいのがなかったんだよね～」
沙耶　「何にも買わないでお店を出るの気まずいよね～」
千晶　「そうそう、だから1時間ぐらい店の中でブラブラしちゃったよ」
あゆみ「それはそれで気まずくないか！？」

［彩夏のお部屋］
彩夏　「え～と、今回から始まりました彩夏のお部屋です！！これは、私が“～～からから”

に出てくる人たちとお話しをするコーナーです。今回はこの人！！」
あゆみ「おじゃまし ま～す」
彩夏　「早速ですが、唯一のツッコミ役の感想は？」
あゆみ「まぁ、大変かな。でも、私がいないと収集つかなくなるし・・・」
彩夏　「それでは私がツッコミ役をしますね」
あゆみ「え？」
彩夏　「ボケてください（ニヤニヤ）」
あゆみ「無理です（照）」
彩夏　「やっぱり失敗した方には無理ですか」
あゆみ「失敗言うな～！！や、やればいいんでしょ。え～と、ね・・・猫が寝転んだ」
彩夏　「以上、あゆみさんでした～」
あゆみ「え～～～！！！！」
彩夏　「作者さん、次回の前書きに私の紹介しといて」

51～55話（後書き）

今回から新コーナー“彩夏のお部屋”が始まりました。今後どう展開していくのか楽しみです。彩夏さんに言われたので、次回の前書きに彩夏さんの紹介を書いておきますね。久々に紹介を書くような気がします。

最近は暑いです。地球温暖化ですね。もしかしたら、人間の情熱が強すぎて温暖化しているのかもしれませんね。あっ！！これネタに使えばよかった・・・

それでは次回また会いましょう。

今後ともよろしくお願いします。

５６～６０話（前書き）

彩夏の紹介
人をイジルの大好き・腹黒・主役の座を狙ってる・自分のコーナーの終わり方が唐突

56～60話

［炭水化物＋炭水化物］
あゆみ「炭水化物をおかずに炭水化物を食べる人っているよね？」
千晶　「私もそうだよ」
あゆみ「よく食べれるわね。主食に主食じゃない」
千晶　「そうでもないよ。焼そばパン食べるでしょ？」
あゆみ「ま、まぁ」
千晶　「パンも焼きそばも炭水化物でしょ」
あゆみ「そっか～」
千晶　「そういうことなのだよ」

［猫なで声］
沙耶　「猫なで声って言うけど、それじゃ通じないよね？」
あゆみ「なんで？」
沙耶　「だって、にゃ～にゃ～ってことだよね？」
あゆみ「沙耶が言ってるのは猫側でしょ。猫なで声は人間側だから・・・」
沙耶　「そんなこと分かってるよ～。私は猫ににゃ～にゃ～って話すもん」
あゆみ「そ、そうなんだ・・・」

［太陽がなくなる日］
沙耶　「いつか太陽がなくなっちゃうんだって～」
千晶　「そうらしいね～。でも、大丈夫だよ」
沙耶　「どうして？」
千晶　「太陽がなくなっても電気あるし、そのうち地底世界が繰り

広げられるから太陽なんて要らなくなるよ」
沙耶　「そうなんだ～」
あゆみ「妄想も大概にしておけよ！！」

［花占い］
千晶　「買う・買わない・買う・買わない・・・」
あゆみ「なにやってるの？」
千晶　「花占いだよ～。今度出る本を買うかどうかをやっているんだよ」
あゆみ「へ～」
千晶　「買うになった～」
あゆみ「よかったじゃん」
千晶　「まぁ、買うになるように花びら数えてからやったんだけどね～」
あゆみ「それじゃあ意味無いから！！」

［怖い話］
沙耶　「昨日の怖い話の番組とっても怖かったよ～」
千晶　「そうだったんだ。どんな話だった？」
沙耶　「うんとね～。1人で公園にいた女の子がね。うぅん・・・思い出しただけで怖いよ～」
千晶　「1人で公園にいた女の子がどうしたの？」
沙耶　「1人で公園にいた女の子がね・・・もう無理だよ。怖くて話せない」
千晶　（話が進まない・・・）

［彩夏のお部屋］

彩夏　「はい、今週もやってきました彩夏のお部屋です！！今週のゲストは大志さんです」
大志　「どうも～」
彩夏　「最近はめっきり登場されてませんが・・・」
大志　「えぇ、今週は1回も出番が無くて・・・来週こそは！！」
彩夏　「来週も無理なんじゃないですか？だって、このまま消えていくタイプそうですもの」
大志　「え！？どういうことですか～！！」
彩夏　「今回のゲストは大志さんでした～」
大志　「詳細を教えてください！！！！」

彩夏　「私の自己紹介ひどくないですか？ひどいですよね！！私そんなキャラじゃありませんよ。作者は誤解を与えないようにしてください！！」

56～60話（後書き）

今週は忘れてて少しやばかったですね。最近は少し忙しくて何からやって、何をしたら良いのかで頭がパニックを起こしています。

ここで読者の皆様にお知らせを・・・

来週からもっと忙しくなる予定なので、もしかしたら小説を載せることができないかもしれません。土曜日の朝までに載ってなかったら、次の週を楽しみにお待ちください。本当に申し訳ありませんm（＿＿）m

これからも“～～からから”をよろしくお願いします。

61～65話

［衣替え］

千晶　「衣替えの季節になったね～」
あゆみ「そうね～。この時期だとまだ少し暑いわね」
沙耶　「だから大志君は夏服なのかな～？」
千晶　「いや、あいつは忘れてきただけだろ～」
あゆみ「あぁ大志は、青春の熱がまだ冷め切らないんだって言ってたわよ」
千晶　「なんだそりゃ～」

［散歩］

千晶　「うちの犬と昨日散歩行こうと思ったんだけど、いざやるとなるとね～」
あゆみ「で、結局行かなかったのか？」
千晶　「ちゃんと行ったよ」
あゆみ「お！千晶にしては偉いな～」
千晶　「まぁ、家出て3歩しかしなかったけどね」
あゆみ「駄洒落オチかよ！！」

［猫の手も借りたい］

沙耶　「猫の手も借りたいって言葉は変だよね～」
あゆみ「別にそうは思わないけどね～」
沙耶　「だって、猫の手はプニプニの肉球だよ！なにに使うんだろう～？」
千晶　「沙耶は相変わらずだね」

［温水プール］
千晶　「温水プール行きたいな～」
沙耶　「私行ったことあるよ～」
千晶　「いいな～。どうだった？」
沙耶　「肩まで使って１００まで数えたよ」
あゆみ「お風呂かよ！！ってか、中１で１００までって・・・」

［ウＯトラＯン］
千晶　「正義の味方のウＯトラＯンって、本当に正義？」
あゆみ「そりゃ～正義でしょ！」
千晶　「でもさ～、敵を投げたり、敵に投げ飛ばされたときに街を破壊してるよね」
あゆみ「そういうのは、流してあげようよ」

［彩夏のお部屋］
彩夏　「はい、今週“は”やってきました彩夏のお部屋です！！今週のゲストは沙耶さんです」
沙耶　「失礼します」
彩夏　「沙耶さんは最近何か変わったことはありましたか？」
沙耶　「変わったことですか～。う～んなんだろうな～・・・」
彩夏　「じゃあ、楽しかったことは？」
沙耶　「え！？もう次の質問ですか～？え～と、う～んと・・・」
彩夏　「悲しかったことは？」
沙耶　「えっ！？えっ！！変わったことは・・・楽しかったことは・・・悲しかったこと～」
彩夏　「今回のゲストは沙耶さんでした～。次回もお楽しみに」
沙耶　「もう終わりですか～～～～～」

彩夏　「作者さ～ん、ただでさえ私の登場少ないんだから休まないでよね！！まったくもうこれだからゆとりっ子は・・・以下略」

61～65話（後書き）

もう～本当に忙しいですね。読者の皆さんも逆風に負けないように、世間に負けないように頑張ってください。私はもう負けそうですけど・・・。～～からからの世界のようにのほほんと毎日を暮らしていきたいです。切なる願いです！

それでは、これからも“～～からから”をよろしくお願いします。

66～70話

［ア○パ○マ○］
千晶　「ア○パ○マ○って、愛と勇気だけが友達らしいよ～。残念だね」
沙耶　「なんで残念なの～？」
千晶　「カレーパ○マ○とかメロンパ○ナちゃんとかは友達じゃないってことでしょ」
あゆみ「親友ってことじゃないの」
千晶　「うまく逃げたね！！」

［寝る時の電気］
千晶　「寝るときって電気を真っ暗にする？それとも、こだまにする？」
あゆみ「普通こだまじゃないの？だって、夜起きたときに足とかぶつけるじゃない」
千晶　「でも、真っ暗のほうが眠れるじゃん」
沙耶　「私は電気つけたまま寝るよ～」
千晶・あゆみ「それはちょっと・・・」

［SとM］
千晶　「やっぱり日本人はSが多いよね～」
沙耶　「そうだね～」
あゆみ「なにを言ってるの？日本人は統計的にMが多いのよ」
千晶　「え！？そうなのか～。でも、佐藤とか鈴木って苗字の人多くない？」
あゆみ「そっちの話！？」

千晶　「どっちの話だと思ったのかな～？」
あゆみ「う、うるさい！！」

［最終決戦］
千晶　「ゲームとかしてると、魔王がかわいそうだなと思ってさ～」
あゆみ「どうして？」
千晶　「だって、たいてい魔王1人に対して多数でボッコボコでしょ～」
あゆみ「まぁね。でも、魔王のところまで行くのに雑魚キャラをこれでもかってぐらい倒さないといけないんだからいいんじゃない？」
千晶　「それに魔王もMだしね～。いろんな意味で」
あゆみ「その話を引っ張るな！！」

［ホラー映画］
あゆみ「ホラー映画怖かったわね・・・」
千晶　「怖かったね～。ホラー映画なんて久しぶりに見たよ」
沙耶　「怖かった～？」
千晶　「お！沙耶は怖いの大丈夫なタイプか～。意外だね～」
あゆみ「そういえば、隣に座ってたのに声とか出さなかったわね」
沙耶　「う～ん。実は寝てたんだ・・・」
あゆみ「それは逆にすごいな！！」

［彩夏のお部屋］
彩夏　「はい、今週も1週間遅れでやってきました彩夏のお部屋です！！今週のゲストは作者さんです」
作者　「俺の前に呼ぶ奴いるだろう！」
彩夏　「間違えました。千晶さんです！！」

千晶　「この登場の仕方はどうなの！？」
彩夏　「千晶さんの趣味はなんですか？」
千晶　「スルーですか？」
彩夏　「スルーなんですか～。でも、その趣味って変ですね」
千晶　「ちょっ！！そういう意味じゃないって」
彩夏　「じゃあ、どういう意味のスルーなんですか？」
千晶　「スルーから離れろ～」
彩夏　「今回のゲストは千晶さんでした～。次回もお楽しみに」
千晶　「こんな感じで本番やったら良いの？」
彩夏　「もう本番ですから！！！！」

彩夏　「作者さん・・・もうそろそろ本編でも新キャラ準備したほうが良いんじゃないの！皆飽きちゃってるよ。特に私が！！ってか、新キャラ出ないと次から2週目に入っちゃうから～～」

６６～７０話（後書き）

今回も１週間遅れですいませんｍ（＿＿）ｍ来月も１週間置きになるかもしれません・・・。

前もって言い訳をしますと、実は学校のレポとかが多くて・・・。実験報告書などはもうなんと言ったら良いやら。とまぁ、こんな感じで忙しい学生生活を送っております。読者の皆様もお忙しいとは思いますが、いろいろなものに負けないよう頑張ってください！！むしろ、とことんやっつける勢いで攻めきってください！！

それでは、これからも“～～からから”をよろしくお願いいたします。

71～75話

［午後の紅茶］
千晶　「午後の紅茶はおいしいね～」
あゆみ「ちょうど良い甘さね！！」
沙耶　「でも、午後にしか飲めないのが困っちゃうよね～」
あゆみ「いや、午前中にも飲めるから！！！！」

［ドライアイ］
沙耶　「最近ドライアイってよく聞くよね～」
千晶　「そだね～。よくＣＭとかでやってるよね」
沙耶　「うんうん。ＣＭと商品合ってないよね」
千晶　「え？合ってると思うけど・・・」
沙耶　「だって、ドライアイはドライアイスのことでしょ？」
千晶　「それはさすがにないかな～」

［占いの１１位］
千晶　「占いの１１位って、不公平だよね！！」
あゆみ「いきなりなに言ってるのよ？」
千晶　「だってさ、１２位は幸運のカギみたいなのでフォローしてもらえるけど、１１位は何にもないじゃん」
あゆみ「でも、１１位の人にまでフォローしたら、今度は１０位が不公平って言うんでしょ？」
千晶　「あ～もう、いっそうのこと占いなんてやめちゃえば良いのに！！」
あゆみ「お前が見るのをやめろよ！！」

［タマゴ］
沙耶　「昨日の卵焼きおいしかったんだ～」
あゆみ「出汁とか入れたの？」
沙耶　「う～ん、お母さんが作ってくれたのだから良くわからないけど・・・」
千晶　「つまり、沙耶はひよこの命を奪ったと・・・」
沙耶　「え！！」
千晶　「だから、卵からひよこが生まれるわけでしょ！それを食べたって事は、ひよこの命を奪ったのと一緒じゃん」
沙耶　「そ、そんな～。じゃあ、今までたくさんのひよこの命奪っちゃったんだ・・・」
あゆみ「あのね～。私たちが食べる卵は無性卵だから、ひよこは生まれないんだよ」
沙耶　「よかった～」
千晶　「ま～、知ってたんだけどね～」
沙耶　「千晶ちゃん騙すなんてひどいよ～」

［ポニーテール］
千晶　「お！今日はあゆみポニーテールなんだ！！」
沙耶　「かわいい～」
あゆみ「あ、ありがとう」
千晶　「そういえば、何でポニーテールなんだろうね？ホースでもいいよね？」
あゆみ「さぁ、ポニーのほうがかわいいからじゃない？」
千晶　「と言うことは、あゆみはホーステールかな？」
あゆみ「うるさい！！」

［彩夏のお部屋］

彩夏　「はい、今週もやってきました彩夏のお部屋です！！今週のゲストは2週目の大志さんです」

大志　「さ、最近本当に出番がなくて・・・・（泣）」

彩夏　「私もあんまり無いですよ（泣）」

大志　「お互い頑張りましょう」

彩夏　「いや、私だけでももっと出番を！！」

大志　「ひ、ひどい！！」

彩夏　「じゃあ、大志さんが“～～からから”に出るメリットは？」

大志　「唯一の男キャラというのが！！」

彩夏　「男キャラって必要？」

大志　「それは・・・絶対必要かと！！」

彩夏　「私はいらないと思います！！それでは、また今度お会いしましょう～」

大志　「俺にもコーナーをください！！」

彩夏　「作者さん！私は本編に出れるの？出れないの？どっちなの？ってか、大志よりは出してよね！！」

71～75話（後書き）

とりあえず、大志君のお願いは却下です（笑）コーナーが2つもあったら大変ですから！それに、作っても続きそうにありませんし・・・。

彩夏ちゃんの本編進出は・・・考えておきます。軽い返事で後々責められても困るので！！

そろそろ新キャラを作る頃かな～と思っております。と、前々から言ってますが・・・新キャラを登場させる良い話がなかなかありませんので、まだまだ後になりそうです。というか、どんな新キャラが良いか模索中です。出口の見えないトンネルです。誰が出口に導いてくださいお願いしますm（＿＿）m

それでは、これからも“～～からから”をよろしくお願いいたします。

76～80話

［ティッシュ配り］

沙耶　「ティッシュ配りの人から2～3回もらっちゃうと悪い気がするよね～」

あゆみ「なんで2～3回ももらうのよ？」

沙耶　「なんか、道を行ったり来たりしてると断れなくてもらっちゃうんだ～」

千晶　「私もたくさんもらうよ！ティッシュ配りの人は速く終わらせてあげたいからね！」

あゆみ「同じ人が何個ももらったら宣伝効果ないだろ！！」

千晶　「でも、どうせ配ってるのはバイトの人でしょ？」

あゆみ「それもそうね」

沙耶　（あゆみちゃんが納得しちゃった！！）

［写メ］

千晶　「写メって写メールのことだよね？」

あゆみ「そうね」

千晶　「でも、写メって送ることより撮ることのほうがメインになっちゃってるよね？」

あゆみ「ま～、記念で撮るのとかもあるしね」

千晶　「ってことは、携帯はアルバムつきのカメラなの？」

あゆみ「いや、携帯は携帯だろ！！」

［流行語大賞］

千晶　「流行語大賞って良いことなの？」

あゆみ「断然良いことでしょ！！」

千晶　「でも、流行語大賞取った芸人さんは大抵見なくなるよね？」
あゆみ「最後に大きな花を咲かせたってことで良いんじゃない」
千晶　「それもそうだね～。消えた芸人さんを思い出せないし」
あゆみ「実力ある芸人さんは生き残るだろうしね～」
楓　　「そもそも実力あったら一発系のギャグに頼らない！！」
千晶・あゆみ「それだ！！！！」

［ジャンプ］
千晶　「移動教室は面倒だね～」
あゆみ「そうね」
楓　　「そういう時は、まず横に並んで立ちます」
沙耶　「こう？」
楓　　「そうそう。そして、思いっきりジャンプをします。せ～の」
全員ジャンプをする。
楓　　「あれ？場所が移動しない！！」
あゆみ「テレビの見すぎだ！！！！」

［挽回］
楓　　「ごめんね～。だって、テレビだとワープするからさ」
千晶　「現実とそうじゃないことを区別しようね～」
沙耶　「今度何かあったときに汚名挽回できるといいね～」
楓　　「汚名を挽回しないといけないの！？」
沙耶　「そうだよ～」
あゆみ「それを言うなら、名誉挽回じゃない？」
沙耶　「えっ！」
千晶　「そもそも楓に名誉は無いから挽回もできないね（笑）」
楓　　「ひど！！沙耶よりはあるよ！」
沙耶　「楓ちゃんに言われた～（泣）」

［彩夏のお部屋］

彩夏　「はい、今週もやってきました彩夏のお部屋です！！今週のゲストは新登場の楓ちゃんです！えっ！？道が混んでて遅れてくる？じゃあ、私は何をしたら・・・」

悠二　「何にもしなくて良いんじゃないですか？」

彩夏　「だっ、誰！？」

悠二　「さ～、誰でしょう？」

彩夏　「何でここにいるの？」

悠二　「さ～、なんでいるんでしょう？」

彩夏　「もしかして来週本編登場ですか？」

悠二　「さ～、俺にはわかりません」

彩夏　「・・・」

楓　「すいません！！遅れました（焦）」

彩夏　「よかった～。それでは始めますね！って、もう終了時間！？」

悠二　「また今度お会いしましょう～」

彩夏　「だから、あなたは誰なのよ～～～～！！」

彩夏　「いろいろ文句はあるのですが・・・コーナーを乗っ取られたりしませんよね？大丈夫ですよね？」

76～80話（後書き）

彩夏ちゃんのコーナーは、きっと乗っ取られないと思いますよ・・・多分ですが（笑）

今回ついに新キャラ登場できました！！先週ぐらいに新キャラ登場はまだまだ先になりそうとか言ってたような・・・ま～、そんなことはどうでも良いのです！！作者も迷走中です。そして、読者の皆様も迷ってください。新キャラの使いどころもあんまり考えてません！行き当たりばったりです。ってか、5話毎だと新キャラの印象作りができない・・・。ネタがどんどん湧き出てこない私のせいですが（笑）

それでは、これからも“～～からから”をよろしくお願いしますm（＿＿）m

81～85話

［日本語は難しい］

沙耶　「昨日、私のお母さんとお父さんはとってもラブラブだと思ったよ～」

千晶　「どうして？」

沙耶　「だって、お父さんがテレビ見るときに何か“つまみながら食べたい”って言ったんだよ！」

千晶　「え？」

沙耶　「だから～、妻見ながら食べたいって言ったの！！」

千晶　「いや、摘みながら食べたいじゃないか？」

沙耶　「え～！？」

あゆみ「そもそも、摘みながら食べるって日本語的におかしいだろ！！」

［約束］

あゆみ「嘘ついたら針千本の～ます。指切った」

楓　「指切られた！！血が～、小指から血が～」

あゆみ「出てないから！！」

楓　「ってか、嘘つく前から指切るってどういうことだよ！」

あゆみ「だから、切ってないから！！」

楓　「ハリセンボンなんて飲めないよ！！人間じゃん！！」

あゆみ「そのハリセンボンじゃないから・・・」

［調理実習］

千晶　「調理実習は沙耶に任せておけばｏｋだね～」

あゆみ「そうね。私たちより断然うまいもんね」

楓　「沙耶～。牛乳は？チョコは？」
沙耶　「ダメだよ～」
千晶　「何でもかんでも入れようとするなよ！楓」
楓　「料理はひらめきなのだよ！！思い立ったら吉日だよ！！」
あゆみ「おいしくなくなっても知らないよ」
楓　「そうしたら皆が頑張って食べれば良いじゃん！私は見てるからさ」
あゆみ・千晶「おい！！！」

［調理実習2］
楓　「牛乳は？チョコは？」
沙耶　「だから、ダメだってば～」
千晶　「まだやってのか？」
あゆみ「いい加減にしなさいよ！！」
沙耶　「今度は、お菓子の材料を食べようとしてるんだよ～」
楓　「このチョコおいしいよ～」
沙耶　「ダメって言ってるのに～」
楓　「はい、沙耶お食べ」
沙耶　「おいしい～。もう1口ちょうだい」
楓　「はい、千晶お食べ」
千晶　「甘くておいしいね～」
あゆみ「誰かこいつらを止めてくれ」
楓　「はい、あゆみもお食べ」
あゆみ「うん。おしい・・・って、チョコなくなったじゃないか！！」

［調理実習3］
あゆみ「悠二、チョコ少し分けて」

悠二　「んぐんぐ、食べかけでもいいか？」
あゆみ「お前も食べてるのかよ！？」
悠二　「失礼な！これは大丈夫なやつだ！！」
あゆみ「どうゆうことよ？」
悠二　「これは大志たちの班のチョコを気付かれないようにもらってきたんだ」
あゆみ「なおさら悪い！！」

［彩夏のお部屋］
彩夏　「はい、今週もやってきました彩夏のお部屋です！！今週は先週の続きで楓ちゃんです」
楓　「おじゃまし～す」
彩夏　「それではさっそく質問を・・・」
楓　「私がすれば良いんですよね！」
彩夏　「え？」
楓　「今日学校で出たこの宿題がなかなかうまくいかなくて・・・」
彩夏　「え～と、どれどれ。これはここをこうして、ここはこうすれば」
楓　「なるほど！！宿題も分かったので帰りますね～」
彩夏　「じゃあ、また今度・・・って、こんなコーナーじゃない！！」
楓　「でも、時間無いみたいですよ」
彩夏　「なんですって～」
楓　「それでは、また今度お会いしましょう～」
彩夏　「今週も最後の台詞いえなかった・・・」

81～85話（後書き）

新キャラも話しに溶け込んできて良い感じになってきました・・・っと、自分では思っているんですがどうなんですかね？ま～、キャラの初期設定がごちゃごちゃになってきてる感じがします・・・これから戻すと更に変になってきそうなので、このまま突き進んで行こうと思います。

それでは、これからも“～～からから”をよろしくお願いします。

86～90話

［節分］

楓　「鬼は～外。福は～内」
あゆみ「こら、私に向かって豆投げるな！！」
沙耶　「ふと思ったんだけど、鬼に向かって豆を投げるような人に福は来るの？」
千晶　「まぁ、実際は空気か人に投げてるからね」
沙耶　「じゃあさ、人に豆を投げるような人に福は来るの？」
楓　「鬼は～外。福は～内」
あゆみ「だ～か～ら～、豆投げるなって言ってるでしょうが！！」
千晶　「楓とあゆみを見てる限りでは・・・鬼がきそうだね」
沙耶　「だよね～」

［節分2］

あゆみ「楓～、私じゃなくて大志とか悠二に投げてきなよ」
楓　「OK」

楓　「悠二～鬼は・・・」
大志　「な、なかなかやるな」
悠二　「もうあきらめたらどう？」
大志　「まだまだ！！」

あゆみ「もう帰ってきたの？」
楓　「悠二には当てれそうにないし、大志は悠二にボッコボコにされてかわいそうだったから」
あゆみ「そっか（相変わらず大志はやられ役か）」

［3倍返し］
沙耶　「バレンタインだね～」
千晶　「５０００円ぐらいのチョコを買わないとね」
あゆみ「な、何でそんな高いのを買うの！？もしかして・・・本命！！」
千晶　「ううん。3倍返しで１５０００円を現金で返してもらおうかと・・・」
あゆみ「ちょ！！それはチョコを貰う男子がかわいそすぎる」

［友チョコ］
沙耶　「はい、皆にあげるね」
あゆみ「どうも～。これお返しね」
千晶　「バレンタインデーはいいけど、ホワイトデーは・・・」
あゆみ「いきなりどうしたのよ？」
千晶　「男同士でクッキーとかを交換するのかな？」
あゆみ「それはいろんな意味でないだろ！！」

［人1倍］
楓　「私は皆に馬鹿にされているようなので、勉強を人1倍頑張ることにしたよ！！」
沙耶　「人1倍ってことは、皆と同じぐらい頑張るってこと？」
楓　「違うよ！人より1倍頑張るんだよ！ん？1倍だから・・・あれ？」
沙耶　「やっぱり、同じくらいってことだよね！！」
楓　「わかった！！皆より努力してる人の1倍頑張ればいいんだ！！」
あゆみ「とりあえず2人はいろいろと勉強したほうが良いよ」

楓・沙耶「え？」

［彩夏のお部屋］

彩夏　「なんだかんだで２ヶ月ぶりぐらいですね・・・作者はダメな子供ですね。まぁ、それは置いておいて今回のゲストは・・・いない・・・。どうしたらいいの？あ！終われば良いんですね！！それでは、また次回」

彩夏　「って、なんでよ！！ただでさえ出番ないのに（泣）。え？次に出してくれの？本当に？やった～。で、次回の出番はどんな場面で？ふむふむ。最後に・・・コーナー物で・・・？？これって、今のままじゃないですか！！本編に出してくださいよ（泣）」

８６～９０話（後書き）

今回は間が開いてしまってすいませんｍ（＿＿）ｍこれからは、１ヶ月置きに更新を目指したいと思います。なにかと忙しいのでご了承ください。ってか、頑張れ俺！！

それではこれからも”～～からから”をよろしくお願いします

91～100話＋α

［ひな祭り］

沙耶　「3月3日までに卵から孵化するかな～」

あゆみ「沙耶なにを言ってるの？」

沙耶　「え？ひな祭りだよ～。あゆみちゃん知らないの～？」

あゆみ「いや、ひな祭りは知ってるけど、孵化って・・・」

沙耶　「ヒナだよ。ヒナ！！」

あゆみ「多分ひな祭りの雛は沙耶が思ってるヒナとは違うと思うよ」

沙耶　「えぇぇぇ～～～～」

あゆみ（ボケてるのか？それともマジなのか？きっと、マジなんだろうな～）

［ハーフ＆ハーフ］

千晶　「昨日ピザ食べたんだ～」

沙耶　「いいな～私も食べた～い」

あゆみ「なに食べたの？」

千晶　「ハーフ＆ハーフだよ」

沙耶　「半分の半分ってことは、４分の1しか食べられなかったの？」

千晶　「そうなんだよ～。もっと食べたかったな～」

あゆみ「ちゃんと突っ込んでやれよ！！」

［3対1なのに負け！？］

楓　「沙耶の胸はおっきいな～」

楓が後ろから抱きつく。

沙耶　「ちょっと、楓ちゃん止めてよ～」

千晶　「そうやって揉むから大きくなるんじゃないのか？」
楓　「そっか！！今度からは気をつけよう」
沙耶　「も～」
あゆみ「確かに沙耶の胸はおっきいね・・・」
千晶　「うん・・・」
楓　「３人合わせても負けそうだね・・・」
沙耶　「そ、そ、そんなこと無いと思うよ」
千晶・あゆみ・楓（沙耶が気を使っている！！）

［ホワイトデーの要望］
大志　「ホワイトデーのお返し何が良い？」
あゆみ「そういうのって普通聞かないんじゃないの？」
大志　「でも、いらない物あげても困るだろうし」
千晶　「なるほどね～。じゃあ、身長！！」
あゆみ「胸！！」
大志　「それは無理！！」

［今日はフライデー］
楓　「よ～し、みんな屋上に行くよ～」
千晶　「で、屋上に来たわけなんだけど・・・何するの？」
楓　「皆で飛ぶんだよ！！今日はフライデーだから、きっと飛べる！！」
沙耶　「無理だよ～」
千晶　「集団自殺をしろと？」
あゆみ「そもそもつづり違うし」
楓　「それじゃあ、てんぷら食べる？」
あゆみ「それも違うから！！」

［学校の7不思議］
千晶　「学校の7不思議ってなんだっけ？」
楓　「ひとりでに鳴るピアノ・動く肖像画・トイレの花子さん・増える階段・体育館からドリブルの音・口裂け女。あれ？あと1個なんだっけ？」
千晶　「う～ん。実は学校の7不思議が6個しかないってこと？」
楓　「それは嫌だな～」

［学校の7不思議？］
千晶　「学校の7不思議ってなんだっけ？」
あゆみ「テケテケとか、動く人体模型とか、どこまでも続く廊下とかだったような」
千晶　（どうしよう。学校の7不思議なのに、7個を超えてしまった）
あゆみ「あと、7個全部知ってしまうと消えるとかもあったような・・・」
千晶　「7個超えた私はどうしたら？」
あゆみ「消えちゃえば？」
千晶　「ひど！！」

［体温］
楓　「沙耶昨日休んだけど、どうしたの？」
沙耶　「風邪引いちゃったんだよ～。8度2分も熱出ちゃって・・・」
楓　「つらかっただろうね～。そんなに体温下がって」
沙耶　「え？体温は上がったんだよ？」

楓　「だって、８度２分でしょ？それはもう死人並み」
あゆみ「いや、３８度２分のことだろ」
楓　「し、知ってるよ～。間違えるわけないじゃん」
あゆみ「はい、はい」
楓　「たしなめるな～～～！！！」

［子供は風の子］
沙耶　「弟に風邪うつしちゃったみたいで、今日小学校休ませちゃった」
あゆみ「弟がかわいそうね」
千晶　「いいんじゃない？子供は風邪の子って言うし」
沙耶　「だよね～」
あゆみ「風邪じゃなくて風だし！ってか、うつした張本人が開き直ったら弟が泣くぞ！！」

［姉弟］
あゆみ「沙耶の弟って、来月から中学校だよね。どんな子？」
沙耶　「え～と・・・お兄ちゃん？」
あゆみ「え？ごめん。全然わかんない」
千晶　「来月が楽しみだね」
沙耶　「私は来月来ないでほしいかな」

［１００話を終えての雑談会？］
千晶　「来月は２年生だね」
あゆみ「クラス替えあるよね～」
沙耶　「皆と離れたら嫌だな～」
千晶　「大丈夫だよ！作者的に分けると面倒だろうし・・・」

作者　「まぁね～」
彩夏　「それじゃあ、私も同じクラスにしてください！！」
大志　「出番をもっとください！！」
悠二　「お金をください！！」
千晶　「身長をください！！」
沙耶　「運動をできるようにしてください！！」
あゆみ「私は・・・あ！！作者が逃げた～～～～～」

作者　「皆様の要望は、叶ったり叶わなかったりします」
楓　「あの～、何で私は雑談会に呼ばれなかったの？」
作者　「ごめん。忘れて・・・」
楓　「私は～、クラスを変えられちゃうのかな～」

91～100話＋α（後書き）

１００話終わりました。まぁ、特別編も話数に加えるととっくに超えていたりするわけですが・・・。

～～からからの登場人物たちも来年から中学2年生です。これまで以上に、そしてまったりと生活していきます。新しいキャラも増える予定なので、乞うご期待。

それでは、来月からも”～～からから”をよろしくお願いしますm（＿＿）m

101～110話

［4月馬鹿］
千晶　「もしもし～あゆみ？」
あゆみ「今年も電話掛けてきたのか！！」
千晶　「別に嘘つくために電話かけたんじゃないよ」
あゆみ「じゃあ、何のために電話掛けてきたのよ？」
千晶　「なんかさ～、4月1日だからって嘘つくのって馬鹿馬鹿しいなって思ってさ」
あゆみ「だから、4月馬鹿なんでしょ。嘘に引っかかった人が馬鹿なんじゃなくて、4月1日だからっていちいち嘘をつく人が馬鹿な日なのよ」
千晶　「そうなのか！！」
あゆみ「ま～、嘘だけどね」
千晶　「なっ！！（騙すつもりが騙された…）」

［クラス］
あゆみ「今回もみんな同じクラスでよかったね」
沙耶　「そうだね～」
楓　「私も忘れられなかったみたいでよかったよ」
千晶　「面子が変わらないのも新鮮味がないな～」
大志　「俺は違うクラスになったぞ！！」
あゆみ「いや、一緒じゃん」
大志　「いやいや、Gクラス（モンスターハンター的な意味で）に…」
あゆみ「そうか～。じゃあ、もうこのにクラス来るな！！」
大志　「ひど！！」

彩夏　「私…また違うクラス」

［弟］

学　「失礼しま～す。姉貴いますか？」

千晶　「誰の弟さんだろうね？」

あゆみ「身長高いね！」

沙耶　「学～何しにきたの？」

学　「ほれ弁当。今日忘れてっただろ」

沙耶　「わぁ～ありがとう～」

学　「これから気を付けろよ」

千晶　「あれって、沙耶の弟？」

沙耶　「そうだよ～」

あゆみ「あれだな…妹になることを薦めるよ」

沙耶　「え～～～～～～」

［君の瞳…］

楓　「気障なセリフって最近聞かないよね」

沙耶　「そうだね～。実際言われてみたいな～」

楓　「じゃあ、言ってあげるね！」

沙耶　「うん」

楓　「君の瞳と乾杯」

千晶　「随分と痛そうだな」

あゆみ「それを言うなら君の瞳に乾杯だろ！！」

［忘れ物］

大志　「最近忘れ物多いんだよな～」

悠二　「メモ帳かなんかに書いておけばいいと思うよ」

大志　「そうだな」

次の日

大志　「昨日学校からメモ帳持って帰るの忘れてた～」

悠二　「顔とかに書いたらいいよ」

大志　「それだと、俺から見えない…」

悠二　「いいんじゃね？どうせ顔に書いても、書いたこと忘れるだろ？」

大志　「忘れ物しないための話をしようよ…」

［ビスケット］

楓　「ポケットの中にはビスケットが1つ♪ポケットを叩くとビスケットが…」

あゆみ「それを実践しながら歌われてもね～」

楓　「粉々になってる～～（；＿；）」

あゆみ「当たり前だろ！！」

［ひとりぼっちはつらい］

彩夏　「隣のクラスに遊びに行けば良いだけと気づきました」

隣のクラスに遊びに行く

彩夏　「次の時間は体育ですか…どうりで誰もいないはずですね（；＿；）」

［一巻の終わり］

あゆみ「河豚の毒に中ったら、一巻の終わりだよね」
千晶　「ネタバレは良くないと思うよ」
あゆみ「え？」
千晶　「一巻の終わりは河豚の毒に中るんでしょ？」
あゆみ「その解釈は屁理屈だと思う」
千晶　「私もそう思う」

［便秘解消］
楓　「便秘でお悩みのそこの奥さん！！」
千晶　「奥さんではないけどな」
楓　「この傷んだりんごを食べると便秘が治りますよ！！」
千晶　「腹痛になるのはちょっと・・・」

［頭痛］
楓　「頭痛いよ～」
沙耶　「楓ちゃんも？実は私もなんだよね」
千晶　「なるほど～2人とも頭が悪いと・・・」
楓・沙耶「その言い方止めて！！」

１０１～１１０話（後書き）

～～からからの登場人物も無事中学２年生に進級しましたね。新キャラ学も増え、これからも一層賑やかになりそうですね。しかしながら、まったり具合は変わらないと思うので乞うご期待。

それでは、来月からも”～～からから”をよろしくお願いします

m（　）m

111～120話

［ゴールデンウィーク］
楓　「ゴールデンウィークは光り輝いてるよ～」
沙耶　「休みはいいよね～」
あゆみ「どっか遊びに行こうか？」
楓　「残念ながら、財布の中は光り輝いてないんだよ・・・」

［みどりはかわいそう］
沙耶　「緑ってかわいそうだよね～」
千晶　「どんなところが？」
沙耶　「信号の緑が青って言われてるところ～」
千晶　「沙耶。信号の色言ってみて～？」
沙耶　「赤・青・黄色」
千晶　「沙耶も青って言ってるじゃないか！！」

［みどりはかわいそう2］
千晶　「あおちゃん。この前の宿題見せて～」
沙耶　「は！こんなところまで緑現象が進んでいたのなんて・・・」
千晶　「え？？？？」
沙耶　「だって、みどりちゃんにのことあおちゃんって・・・」
千晶　「蒼井みどりだから、蒼ちゃんでいいじゃん」
沙耶　「ならいっか～」
千晶　「折れるの早！！ってか、ちゃんと苗字も覚えてあげて・・・
あおちゃんがかわいそうだから」

［今回こそは］
彩夏　「前回は体育の時間だったので合流に失敗したので再チャレンジです！」
彩夏　「そうですか・・・今回は家庭科で調理実習ですか・・・じ、次回こそは！！」

［調理実習］
あゆみ「今回はカレー作りか」
楓　「とう！とう！！」
沙耶　「すごい包丁さばき！！」
千晶　「ぜんぜん切れてないけどな」
楓　「そして、これを投入！！！！！」
あゆみ「ちょ、やめろ！！丸ごとと変わらないじゃないか！」
楓　「男の料理だよ！！あゆみ！」
あゆみ「おまえは女だ！！！！！」

［調理実習２］
沙耶　「あ～あ、入れちゃった」
楓　「大丈夫だよ。このまま３日くらい煮込めば完成」
千晶　「残念ながら、そんなに調理実習は長くないんだよ・・・」
楓　「なんと！！！」
あゆみ「これどうするのよ・・・」
楓　「う～～～ん・・・あゆみが食べる」
あゆみ「食べないよ！！！」

［調理実習３］

千晶　「愛情こもったカレーはいかがですか？」
大志　「お！！女子のカレー食いたい！！」
千晶　「はい、どうぞ・・・それでは、私はあなたのカレーをいただきますね。それでは～」
大志　「鍋ごとかよ！！ってか、千晶のお嬢様素振りと脱兎のごとくの逃げ方・・・何かある！」
大志が鍋のふたをあける。
大志　「や、野菜が丸ごと浮いてる・・・」
悠二　「お前なにしたんだよ？」
大志　「千晶とカレーの交換を・・・」
悠二　「まぁ、俺の班には関係ないから良いか」
大志の班「今日は具なしカレーか・・・」
大志　「浮いてるすべての野菜を食べろと！？」
悠二　「自業自得だろ」

［調理実習４］
大志　「なんとか食べきったぜ」
あゆみ「大志～さっきはごめんね」
大志　「いや、おいしかったよ」
あゆみ「これ、お詫び」
大志　「お前って奴は・・・ウルウル」
あゆみ「じゃぁね～」
大志　「って、これ食べ終わった皿じゃんか！！」

［今日はやさしい］
大志　「お！トランプやってんじゃん。俺も混ぜて～」
千晶　「良いよ～」
大志　「今回はやさしいんだな？」

沙耶　「千晶ちゃん引越しするんだって・・・」
大志　「え？」
千晶　「そんなこと言わなくて良いよ」
大志　「遠くなのか？」
千晶　「まぁ、遠いかな」
大志　「そっか」

［引越し］
千晶　「引越し終わった～。大変だったよ～」
大志　「え！？遠くに行くんじゃなかったのか？」
千晶　「う～ん。５００ｍぐらい移動したよ！十分遠いじゃん」
大志　「騙された～～～～～～」

１１１～１２０話（後書き）

もうすぐ６月ですね。６月は唯一祝日が無いつきらしいです・・・考えただけで悲しいです。今日本を買いに本屋に行ったら売ってませんでした・・・悲しいです。そんな、テンション下がり気味の作者が書いておりますが、からからのメンバーは楽しそうですね。私も少しでも良い明日が来るように願いながら生活していきたいと思います。

それでは、次回の”～～からから”でお会いしましょう。次回はいつになるのかな～？

121～130話

［6月の祝日］
千晶　「なんで、6月には祝日がないかな～？」
楓　　「作ればいいんだよ！！」
あゆみ「例えばなによ？」
楓　　「う～ん、梅雨の日！！」
あゆみ「祝えないから・・・」

［6月の祝日2］
楓　　「だったら、どんな日がいいの思うのさ！」
あゆみ「6月といえば、ジューンブライドって言うから・・・」
千晶　「あ！結婚記念日！！」
あゆみ「それは、意味が違くなるだろ！！」

［いい女］
沙耶　「梅雨入りしちゃったね～」
あゆみ「ジメジメして、気持ちわる～」
千晶　「だったら、いっそうのこと水をかぶっちゃえばいいんじゃない？」
あゆみ「な！何言ってるの！！」
千晶　「水も滴るいい女になるよ～」
沙耶　「いい女になれるの・・・水を被ろうかな？」
あゆみ「いい女になれないから！！むしろ、変な目で見られちゃうから！！」

［蛙］

楓　「あゆみ～見てみて～」

あゆみ「ちょ！！馬鹿！！何蛙なんて持ってきてるのよ！！」

楓　「外にいたから、あゆみに見せてあげようと思って」

あゆみ「い、いらないわよ！！近づけないでよ！！」

楓　「そんなに嫌がんなくても・・・人種差別はよくないよ！！」

あゆみ「人間じゃない！！」

［災難］

彩夏「今回は、体育でも家庭科でもないので遊びに行きましょう。きっと、みんな教室にいるはずです」

楓　「そんなに嫌がらないで！蛙かわいいよ～。ほら！！ほら！！」

あゆみ「やめてよ！！やめなさいよ！！」

あゆみが蛙の乗っている楓の手を下から上にたたき上げた。

楓　「痛～～～～」

あゆみ「あんたが悪いんだからね！！」

楓　「う～～～。あれ？蛙どこいった？」

彩夏「失礼しま～～～～」

彩夏の顔に蛙が着地。

彩夏「きゃ～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～」

［カタツムリ］

楓　「エスカルゴ連れてきたよ～」

千晶「エスカルゴはバター焼きがおいしそうだよね」

楓　「食べたことないからわかんないな～」

あゆみ「２人とも何の話をしてるの？」

楓　「エスカルゴの話だよ」
あゆみ「でも、私が見る限りカタツムリにしか見えないんだけど・・・」
楓　「名前がエスカルゴなの！！」
あゆみ「はぁ～」

［カタツムリ2］
あゆみ「でも、さっき千晶がバター焼きとか言ってなかった？」
千晶　「エスカルゴと同じに料理したらおいしいそうじゃん。同じカタツムリだし」
あゆみ「それはないだろ・・・」
沙耶　「バターとアルミホイルはあるから・・・」
あゆみ「沙耶！！料理しようとしない！！」
沙耶　「うぅ～～～」

［災難2］
彩夏　「さっきはひどい目に遭いました。でも、今度こそ大丈夫なはず・・・」
彩夏は教室の前まで来る。
教室内の話が漏れてくる。
千晶　「大丈夫だよ。料理して、私達が食べなきゃ良い話でしょ？」
あゆみ「カタツムリのバター焼きなんて誰に食べさせる気よ！！」
千晶　「彩夏とかでいいんじゃない？好き嫌いとかなさそうだし」
沙耶　「確かに、好き嫌いはなさそう！！」
教室の前の彩夏。
彩夏　「今日は帰りましょう・・・おとなしく帰りましょう・・・いくら私でも、カタツムリは無理です」

［味見］

千晶　「なんとか、家庭科室に潜りこんで作ったけど・・・誰に食べさせようか？」

沙耶　「弟を呼んでおいたから大丈夫だよ」

学　「失礼します」

沙耶　「こっちこっち～。これを味見してもらいたいんだけど」

学　「・・・カタツムリにしか見えないんだけど・・・」

沙耶　「だって、カタツムリだもん」

学　「こんなの食えるか～～～」

学逃走。

千晶　「中身教えたら駄目だよ！！」

沙耶　「そっか～」

あゆみ「それ以前に、それを食べさせようとするのが駄目だろ！！」

［味見2］

沙耶　「味見してくれる人いないね・・・」

千晶　「良い人を見つけたよ。た～～～いし～～～～～」

大志　「なに？」

沙耶　「これを食べてほしいんだけど・・・」

大志　「これって手作り？」

沙耶　「うん」

大志　「まじで！！じゃあ、食べる・・・もぐもぐ・・・う、う、うまいよ」

千晶　「あ～、やっぱり駄目だったか～」

沙耶　「エスカルゴとカタツムリは別物だったみたいだね～」

大志　「って！！これ、カタツムリかよ！！」

千晶　「でも、愛情も詰まってるよ？愛も吐き出すきなのかな？」

沙耶　「それは悲しいな～」

大志　「そ、そんなことしないさ～」

数時間後

大志　「お腹痛いよ・・・」

千晶　「良い子はマネしないでね！！」

あゆみ「おまえが言うな～～～～！！」

１２１～１３０話（後書き）

６月も終わるというのに、作者の地域では梅雨入りしていません。毎日晴れ渡っております。このまま、梅雨入りせずに夏に突入してほしいと願っております。ということで、今回は今年の梅雨を想像して書いてみました。

７月からもっともっと暑くなると思いますが、読者の皆様は、負けずに頑張ってください。作者は、負け続けようと思っています。

それでは、これからも”～～からから”をよろしくお願いしますm（＿＿）m次回はいつかな～？

131～140話

【男の落とし方】
沙耶　「男の子を落とす方法ってなにかな～？」
あゆみ「いきなりどうしたの？好きな人でもできた～？」
沙耶　「そういうんじゃないんだけど、弟にも彼女とかできるのかな～って思って・・・」
あゆみ「なるほど～。学君に変な虫が付いたら困るもんね」
千晶　「それなら、よく使われる落とし方知ってるよ！！」
沙耶　「何々？？」
千晶　「まず、マンションの屋上に呼び出します」
沙耶　「うんうん」
千晶　「そうしたら、男の人を屋上の淵のところに立たせて後ろから・・・」
あゆみ「突き落としてどうするんだよ！！」

【コンソメパンチ】
楓　「コンソメパンチのポテトチップス買ってきたよ～」
千晶　「皆でたべよう！！」
楓　「うん」
あゆみ「私も食べる～」
楓　「あゆみには、半分だけね」
あゆみ「え？どうゆうこと？」
楓　「ぱ～～～～んち」
あゆみ「コンソメパンチのパンチの部分かよ！！」

【薬の調査】

沙耶　「ドラマとかで麻薬を調べるとき舐めるよね？」
千晶　「うん。よく見かけるね～」
沙耶　「あれって、犯罪にならないのかな～？薬物中毒とかにならないのかな～？」
千晶　「実はね・・・その警察は薬物中毒で、合法的に薬を舐めるためにその役職にいるんだよ」
沙耶　「そ、そうだったんだ～！！」
あゆみ「んなわけあるか～～～～」

【ガリガリ君】
楓　「ガリガリ君おいしいよ～」
千晶　「知ってる？ガリガリ君をたくさん食べると痩せれるんだよ！！」
楓　「本当に？」
千晶　「痩せるから、ガリガリ君って名前になったんだよ」
楓　「じゃあ、たくさん食べる！！」

楓　「お腹が冷えて、腹痛になったんだけど・・・」
千晶　「まぁ、嘘だしね」
楓　「え！！！！！」

【七夕　流れ星】
千晶　「あれが彦星で、あれが織姫ね」
沙耶　「そうなんだ～。う～～ん、首を上にしてると疲れるね～」
千晶　「そうだね～～」
沙耶　「あ！流れ星！！お願いしないと・・・って、彦星が流れ星になっちゃってる・・・」
千晶　「彦星もついに落ちてしまわれたか・・・」

【七夕　織姫は・・・】
千晶　「彦星が落ちても、織姫は追いかけないんだね」
あゆみ「彦星は報われないな～」

【七夕　織姫の今後】
千晶　「織姫も、もうそろそろ違う人がいいのかな？」
あゆみ「人は星の数ほどいるって言うからね・・・」
千晶　「まぁ、織姫の相手はまんま星の数だからね～」

【夏休みの予定】
あゆみ「今年の夏休みの予定はなにかあるの？」
千晶　「最後の日以外は全部未定かな」
あゆみ「最後の日はなにするの？」
千晶　「そんなの決まってるじゃないか！宿題だよ！！」
あゆみ「計画的にやれよ！！」

【プール開き】
楓　「プール開きだよ！！泳ぎまくりだよ！！」
千晶　「うん。少し落ち着こうか」
楓　「落ち着いてる場合じゃないよ！！テンション上がりまくりだよ！！」
沙耶　「そうなんだけどね～」
楓　「皆水着になるのが嫌なの？そんなの大丈夫だよ！！」
あゆみ「そうじゃなくて、うちの学校プール無いから・・・」
楓　「あ！！忘れてた・・・」

【夏休み初日】

千晶　「あゆみにも注意されたことだし、毎日計画的にやりますか」

宿題とにらみ合う。

千晶　「あ、明日からでいいよね？今日は初日だし、夏休みまだまだあるし」

こうして、夏休みの最後の日まで宿題をほとんどしない千晶であった。

１３１～１４０話（後書き）

いつの間にやらアクセス数５０００を超えて、６０００アクセルになっていましたΣ（＝□＝）！心から感謝申し上げますｍ（＿＿）ｍ

今回は、ぎりぎり今月中に更新することができました。危なかった～。テストに追われて、月末が大慌てでした。そして、明日から夏休みです！引きこもります！！こんな駄目な作者ですが、これからも頑張って更新していきたいと思っていますので、よろしくお願いしますｍ（＿＿）ｍ

それでは、これからも”～～からから”をよろしくお願いしますｍ（＿＿）ｍ

141～150話＋α

【夏休みの友】
千晶　「友達と一緒に遊びに来たよ～」
あゆみ「え？誰もいないじゃない？」
千晶　「じゃじゃ～ん。夏休みの友」
あゆみ「はいはい。そういうことね」
千晶　「それでは、がんばってやってくれたまえ夏休みの友よ」
あゆみ「私は夏休み限定の友達なのかよ！！宿題担当なのかよ！！」

【全員集合】
楓　「遅れてごめ～ん」
沙耶　「本当に遅いよ～」
楓　「私がそろって、やっと全員集合か～」
あゆみ「それがどうかしたの？」
楓　「８時前に全員集合しちゃったなって思ってさ」
あゆみ「あんた何歳よ！！」

【全員集合？】
彩夏　「皆さんはいったい夏休み中なにをしてるんでしょうね？遊びの誘いが無いのだけど…まさか！！そ、そんなことないわ。忘れられてるなんて…皆忙しいのよね。うん。」

【うちゅう間】
千晶　「宿題も一段落ついたね～」
あゆみ「テレビ付けるね」

楓　「お！高校野球」
アナウンサー「打球が右中間に飛んだ～～～」
楓　「いっつも思うんだけどさ～。宇宙間ってどんだけ広いんだよ！！」
あゆみ「いや、センターとライトの間ってことだから…」
楓　「じょ、冗談だよ！！」
千晶　「はいはい」
楓　「たしなめるな～～」

【一方沙耶は】
沙耶　（全然野球の話がわかんない…でも、私だけわからないのは恥ずかしいな）
千晶　「沙耶～。野球わかる？」
沙耶　「わ、わかるよ。センターはホームセンターで、ライトは光るやつだよね！」
千晶　「無理しなくても大丈夫だよ」
沙耶　「う、うぅ～～～」

【夏休みの終わり】
千晶　「夏休みが終わってしまう」
あゆみ「そうだね」
千晶　「これで、あゆみともお別れか…」
あゆみ「その設定まだ引きずってたのか！！」
千晶　「でも、心配しないで！あゆみはいつまでも私の心で生き続けるから…」
あゆみ「勝手に殺すな～！！」

【デビュー】
沙耶　「夏休みが終わっちゃったね～」
楓　「悲しむことはないさ！！２学期デビューをすればいいのさ」
あゆみ「デビューって、新しい環境じゃなくちゃ意味ないでしょ！！」
楓　「そっか～。じゃあ、ヒデブーで」
あゆみ「だから、何歳だよ！！ってか、死んじゃってるじゃん」

【フルマラソン】
沙耶　「オリンピックってすごいよね」
あゆみ「うんうん。人間ってあそこまでできるんだね」
千晶　「そういえば、何でマラソンは４２．１９５キロ走るんだろうね？車とかだ移動すればいいのに」
あゆみ「それは言ったらだめだろう…」

【嘘つきは泥棒の始まり】
楓　「嘘つきは泥棒の始まりなんだって」
あゆみ「うん。知ってるよ」
楓　「だったら、嘘つく前に泥棒したらいいんだね！！」
あゆみ「どこをどうやったら、そんな答えが出てくるんだよ！！」
楓　「だって、嘘つかなかったら泥棒は始まらないんでしょ？」
あゆみ「いや、泥棒になっちゃってるじゃん」
楓　「あれ？」

【体育館裏】
楓　「あゆみはいっつも私に冷たいね！！つっこめばいいと思って！！」

あゆみ「い、いきなりどうしたのよ！！」
楓　「つっこまれるほうの身にもなったらいいんだ！！」
あゆみ「なんで、いきなり逆切れなのよ！」
楓　「もういい！！今日の放課後体育館裏で待ってるから！！」
あゆみ「決闘！？」
楓　「そう、決闘！！私は行かないけど！！」
あゆみ「だったら意味ないでしょうが！！」

【１５０話を終えて】
作者　「久々にこのポジションをやらせていただきます。みなさんに１５０話を終えた感想を聞いてみましょう」
千晶　「ペースが落ちてますね」
あゆみ「私たちの日ごろを描くだけなんだから、１５０話と言っても楽でしたよね？」
沙耶　「私にはよくわかりませんが、がんばってください」
楓　「主役にしてください！！」
彩夏　「出番は貰えるようになったのですが・・・もう少しからませてください」
大志　「ほとんど出れなくて・・・」
悠二　「このコーナーって必要なの？」
作者　「え～と。皆様の厳しい意見を右から左へ受け流してこれからもがんばっていきます」
あゆみ「受け流すのかよ！！」

１４１～１５０話＋α（後書き）

今回で１５０話を書き終えました。ひとえに皆様のおかげです。こんな、グダグダ小説に付き合っていただき本当にありがとうございます＞ｍ（＿＿）ｍ＜

先月は、夏休み効果でアクセス数が増えたために恐怖のあまり更新できませんでした（いいわけです）本当に申しわけありません。

次の更新はいつになるかわかりませんが、これ以上ペースダウンしないように頑張っていきたいと思いますので、これからも”～からから”をよろしくお願いします。

151～最終話

【保健室】

沙耶　「う～ん。具合悪いな…」
あゆみ「大丈夫？保健室行こうね」
沙耶　「うん」
楓　「魅惑の保健室に行くんだな！！わくわくだ！」
あゆみ「別に遊びに行くんじゃないんだからね」
楓　「わかってる。わかってる。身長、体重、スリーサイズ♪」
あゆみ「遊ぶ気満々じゃない！！」
沙耶　「私も測りたいな…」
あゆみ「沙耶はベットで寝てなさい！！」

【体重】

楓　「体重測ってみよう…うん。上出来！」
あゆみ「私も測ってみようかしら…げ！！１０キロも太ってる！！」
千晶　「あゆみの体重は成長期だね」
あゆみ「って、あんたが足乗せてるからでしょうが！！」
千晶　「ばれたか！！」
あゆみ（あれ？千晶の足どけても３キロ太ってる…）

【ダイエット】

千晶　「今日のあゆみの弁当は少ないね」
あゆみ「ちょっとね」
楓　「この前の体重測定が利いたのかな？」
あゆみ「…」
楓　「図星みたいだね」

千晶　「太ってるあゆみもかわいいよ」
あゆみ「まだ、そんなに太ってねぇ～」

【リバウンド】
あゆみ（ここ数日の努力で体重は元に戻ったみたい。よかった）
沙耶　「今日の体育はバスケットボールだって…苦手だな～」
楓　　「大丈夫だよ。リバウンドの名手がいるから。ねぇ～あゆみ」
あゆみ「リバウンドの名手…」
千晶　「体重のほうもリバウンドの名手にならないようにね」
あゆみ「わ、わかってるわよ！！」

【泳ぐ】
あゆみ「そういえば、大志って体育係だよね？」
大志　「体育好きだし、俺にできないスポーツはない！！」
悠二　「水泳はできないけどな」
あゆみ「ほ、本当に？」
大志　「何をい、い、言ってるんだ。泳ぐのはと、と、得意だぞ」
千晶　「目の泳ぎ方が尋常じゃないな」
沙耶　「そっちの泳ぎは得意なんだね」

【手作り風】
楓　　「手作り風メロンパンはおいしいね」
沙耶　「手作り風だもんね」
あゆみ「手作り風の意味わかってる？」
楓　　「手で作ったみたいに、足で作るんだろ！すごい芸当だよな」
あゆみ「そんなわけあるか！！」

【和風・洋風・中華】
楓　「和風と洋風は邪道だな！」
あゆみ「いきなり！？」
楓　「だって、和っぽく洋っぽくってことだろ？本物だせよ！！」
あゆみ「それと手作り風の風は全然違うから！！」
千晶　「中華最強説」
あゆみ「それはお前が好きなだけだろ！！まったく」

【食あたり】
千晶　「9月は食あたりが多くなるみたいだよ」
あゆみ「それは気をつけないとね」
楓　「何が当たるの？良いのが当たるの？」
千晶　「腹痛が当たるよ」
楓　「それは嫌だ…」

【最終回】
あゆみ「んで、何でいきなり最終回なのよ！！」
千晶　「どうせ作者のネタが尽きちゃったんでしょ」
作者　「そ、そんなことないですよ…」
彩夏　「目が泳いでますけど？」
作者　「正直言うと、試し小説だったので3か月くらいで止めるつもりだったんだけど…」
沙耶　「ズルズル来ちゃったってことですね」
作者　「はい」
彩夏　「それでネタが尽きたというわけですね」
作者　「ストックなんてとうの昔に…」
あゆみ「それで、最終回ってわけ」

作者　「はい」
あゆみ「じゃあ、最終回の落ちぐらい作者さんがしてくださいね」
作者　「では…実はドッキリでした～～～」
全員　「ドッキリかよ！！」
作者　「ごめん…嘘」
あゆみ「やっぱり最終回なのかよ！！ってか、紛らわしいことするな！！」

１５１～最終話（後書き）

今まで読んでいただきありがとうございました。試し小説ということで１年間やらせていただきました。終わり方が唐突かつ中途半端なけんは誠に申し訳ありません。もしかしたら、続きを書く機会があるかもしれませんが、現在はこれが精一杯です。

次からは違う形で会うことになると思いますが、その時はよろしくお願いいたします。

最後にもう一度。

今まで”～～からから”を読んでいただき本当にありがとうございました。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n2514c/

〜〜からから

2010年10月10日23時35分発行